

標 題： In vitro cytotoxicity to human cells in culture of some phenolics from olive oil
オリーブ油由来フェノールの培養ヒト細胞における in vitro の細胞毒性

著 者： B. Babich, et al. (米国 イェシーバー大学 スターン女性カレッジ 生物学科)

掲 載 誌： Il Farmaco 58: 403-407 (2003)

要 旨：

オリーブ油フェノールに対する口腔の組織から分離したヒト細胞の相対的反応を評価するために、ニュートラルレッド in vitro 細胞毒性試験を使用した。

使用した細胞系には、歯肉線維芽細胞、不死化、非腫瘍形成性の歯肉上皮細胞および唾液腺由来の癌細胞が含まれた。

3種類の細胞の間でフェノールに対する相対的な感受性に差がないと、認められた。

一般に全ての種類の細胞で、毒性が高い順序は：オレウロペイン アグリコン>オレウロペイン グリコシド、コーヒー酸> α -クマリン酸>桂皮酸>>チロソール、シリング酸、プロトカテキ酸、バニリン酸であった。

習慣的な摂取後に得られる値をはるかに超えるフェノール濃度でだけ細胞毒性が認められたので、フェノールが多いオリーブ油の摂取は安全であると示される。

キーワード： オリーブ油、細胞毒性、フェノール化合物、オレウロペイン
